



↑平和記念資料館内部。目を背けたくるような被爆の現実を知りました。



平成28年度小山・野木・結城合同広島平和記念式典中学生派遣団報告記

平和への願い

野木町では、平和活動のリーダーを育成することを目的に、平成26年度から小山市と合同で中学生の代表を広島平和記念式典に派遣しています。今年度は結城市も加わり、2市1町で参加しました。

8月5日(金)〜7日(日)の日程で派遣し、6日(土)には広島市で開催された平和記念式典に、小山市と結城市の中学2年生と共に、野木中学校2年生2名、野木第二中学校2年生2名の計4名が参列しました。中学生代表として、また町民の代表として立派にその務めを果たしてきました。

派遣を通じて「平和」について学んだこと、現地で体験したり感じたりした中学生4名の感想を紹介します。

野木中学校 柿沼 唯斗



私は、今回の派遣を通して、戦争や原爆の恐ろしさ、そして、平和の大切さを学ぶことができました。

私が今回の派遣で特に印象に残っていることは、被爆者である井口さんによる講話です。井口さんは私と同じ十四才の時に被爆されました。半徑五百メートルの人々は、一瞬にして溶けて形がなくなっ

たそうです。井口さんは約三キロメートル離れた所で被爆したのですが、爆風で額が溶け、無数のガラス片が突き刺さったそうです。そのような恐ろしい体験をしながらも頑張っている人がたくさんいるということを改めて知りました。それに対し私たちは、裕福な世の中で毎日生活をしています。これが当たり前ではなく、このように生活できることが幸せなことであり感謝すべきことであるというこれも、この3日間の体験を通して学ぶことができました。

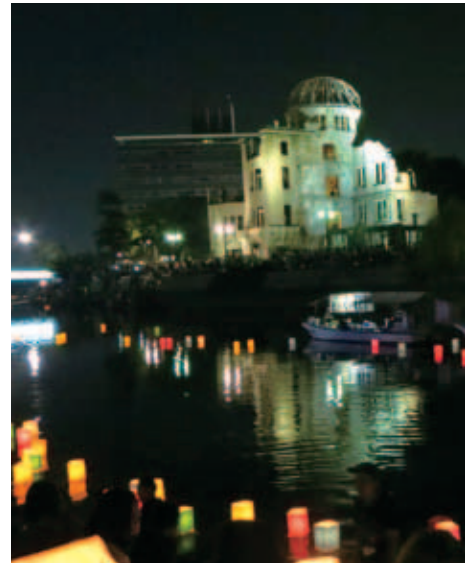
野木中学校 岡部 美月



私は、今回の派遣で、戦争や平和についてたくさん知ることが知り、自分の考えを深めることができました。広島に着き、初めて自分の目で原爆ドームを見たときは、心に残り大きな衝撃を受けました。また、平和記念資料館の被爆当時の再現や被爆者の方のお話は、とても印象的で心に残りました。なによりも二日目の平和



↓この場で71年前に起きたことは、映画や漫画の世界ではなく、本当にあった“現実”でした。



記念式典への参加は、とても貴重な体験となりました。最近、被爆者の方々も少なくなり、戦争を知らない人が増えているということもよくわかりました。そのために、この派遣に参加した私たちが後世へ伝えていかなければならないという思いが一層強くなりました。

今回の派遣は、当たり前だと思っていた日常の背景に、このような悲惨な過去があったということを改めて知る機会となりました。この経験を十分に活かし、広く伝えていくとともに、平和な世界を目指すして歩んでいきたいと思っています。

野木第二中学校 三串 周平
みくし しゅうへい



私は、今回広島平和記念式典に参加して、改めて「平和」について考えさせられた。

「広島原爆」について、私は映画や漫画などを通しての知識は持っていたが、平和

記念公園や平和資料館を見学したとき、それは本当にあった現実なのだと実感した。驚きや悲しみ、怒りなどたくさんの感情がわき、今、何気なくある「平和」の尊さを感じた。そして、広島市長さんの話や子供代表の意見を聞いたときには、この人たちは歴史から目を背けず、平和のために努力している人たちなのだと思います。

私は現在自分たちが行う全てのことが、未来につながると思っている。今は小さなことでも、いずれ大きなことになっていくことだろう。だから、私も先人の努力を無駄にしないよう自分から歩んでいきたい。

野木第二中学校 中村 洸和
なかむら ひろか



今回の平和記念式典に参加することを通して「平和」について深く考え、改めて平和の大切さと戦争の恐ろしさを学ぶことができました。間近

で見た原爆ドームから、原爆がもたらした被害の大きさを感じ、平和資料館では、目を背けたくなるような被爆の現実を知りました。

平和式典では、みんなと一緒に黙祷をさげました。そのときには、年齢も国籍も違うたくさんの人たちがいました。世界中の人たちが平和について考えていると思うと、「平和な世界は理想ではなく、現実に創り上げるものなのだ。」と思いました。そして、「実現させるのは今生きている私たちのものだ。」と強く考えました。



※11月13日(日)の学校教育祭で中学生の広島派遣報告発表があります。ぜひ、足をお運びください。